

第12回（1年）

1. 日 時：令和5年9月1日（金）
13:30～15:30
2. 場 所：へきしんギャラクシープラザ
大会議室
3. テーマ：「安城学園創立者～寺部だいの生涯」
4. 講 師：坂田 成夫先生（安城学園理事）
5. 出席者：16 / 19名
6. 内 容

○年表をもとに「寺部だい」の生涯について、誕生・幼少期・学生時代・教員時代・安城学園創立に至るまで説明があった。昭和37年には、安城名誉市民（女性初）に推挙された。

○当時は裁縫を中心とした学校で、女性の自立と情勢が学ぶことを提唱した。

○教育とは「逃げない・使命感や自信をもたせる・やればできる」ことを実感させることである。目標を掲げ取り組ませる、そのために教員はとことん付き合う、誉めて育てる、悪い点は決して許さない。礼儀・マナーに厳しい。

○寺部だいの言葉（挨拶は社会を通っていくための一つの切符、言葉には創造力がある、マナーは人を幸せにする、寝る時に本を読む）の紹介があった。

7. 感 想

27期生副会長がされた講師への謝辞の中にあつたように、明治から昭和の激動の時代に生きた寺部だいの生き方には驚かされた。生活は規則正しいことが大切で、夜は自分の本を読み、一日を振り返り、明日何をするか考えることを日課としている。寺部だいの言葉から、時の流れに遅れないこと、前進には努力と研究をすること、報恩の思想（すべてのものに感謝するということが大切であると考えた。昭和30年代から唱えられていたことは、今も新鮮であると思う。

